

10 競技場（屋内競技場・陸上競技場）

チェックポイント

- ① 出入口は車いす使用者が通過しやすい幅となっているか、段差はないか
- ② 出入口の戸は自動ドアまたは軽い引き戸となっているか
- ③ 車いす用観客席が設置されているか
- ④ 車いす用観客席までの経路に段差はないか、幅は十分にあるか
- ⑤ 観客席の通路に手すりが設置されているか
- ⑥ トイレの案内が表示されているか
- ⑦ 磁気ループの設置や音による案内があるか
- ⑧ 競技場が2階以上の階数に設けられている場合、エレベーターが設置されているか

【整備のポイント】

- ・競技場の出入口は、他の出入口と同様に、車いす使用者が通過しやすいよう配慮します。
- ・競技場など多くの人が集まる場所では、場内放送が聞き取りにくい可能性があるため、磁気ループ等の案内設備を整えることが重要です。

【整備の手引き】

出入口の寸法

- ◎ 出入口の幅は、**原則として80cm以上**とします。
- 車いす使用者や杖使用者等の利便性を考慮し、可能な限り、主要な出入口の幅は120cm以上とし、それ以外の出入口は90cm以上とします。
- バasket用車いすの幅員は80cm以上あることを考慮し、屋内競技場の主な出入口の幅は、120cm以上とすることが望まれます。
- 出入口の戸の前後には、150cm×150cm以上の平らな面を確保することが望まれます。

戸の形式

- 開き戸よりも引き戸、また、手動式よりも自動式の戸のほうが、開閉しやすく安全です。

自動式引き戸

- 開閉の速度は、素早く開き、ゆっくりと閉まるものが望まれます。
- 通過する人がドアに挟まれないように、ドア枠の左右に安全センサーを設置することが望まれます。
- 自動式の場合、非常時の対応のため、手動式の戸を併設することが望まれます。

手動式引き戸

- 手動の引き戸は、軽い力で動く、上から吊られている形式とすることが望まれます。また、車いす使用者の通過を妨げるような敷居や溝は設けないようにします。

手動式開き戸

- 戸がゆっくりと閉まるよう作動するドアクローザーは、閉鎖作動時間が十分に確保され、かつ、操作の軽いものを設けることが望まれます。
- 開き戸には、プライバシー上問題のある場合を除き、危険防止のため、戸の反対側の様子がわかるような窓を設けることが望まれます。窓は、車いす使用者や子ども等が容易に利用できる高さ、位置とします。
- 戸の前後には、車いす使用者が開閉操作しやすく、通過しやすいように、突出した小さい壁と開閉スペースを設けることが望まれます。

設備・備品等

磁気ループ（聴覚障害者用集団補聴装置）

- 磁気ループとは、大きい会場などで音声を正確に聞き取ることが困難な場合に有効な、磁気誘導の無線装置のことをいいます。磁気ループ等の設置により、聴覚障害者が場内放送を補聴器で聞き取りやすくするため配慮することが望まれます。

音による案内

- 視覚障害者の利用に配慮して、音による案内を設ける場合には、戸の直上に設置することが望まれます。
- その他 66 ページ「情報伝達設備」を参照してください。

ガラス

- 無色透明のガラスは衝突の危険があるため、見やすい高さに横線や模様などで識別できるようにします。

出入口の戸の取手

- 取手は、床から 90cm 程度の位置に設置します。
- 握りやすさ、使いやすさを考慮し、手動式引き戸では棒状のもの、開き戸では大きく操作性の良いレバーハンドル式、プッシュプルハンドル式（ハンドルを軽く押ししたり引いたりするだけで開閉できるハンドル）のものとしします。

エレベーター

- 40 ページ「エレベーター」を参照してください。

非常時のための設備

- 56 ページ「避難設備」参照してください。

その他

- ◎床は、濡れても滑りにくい材質とし、**段差は設けない**ようにします。
- 屋内競技場の壁や柱の材質は、衝突しても安全なようソフト素材を用いるとよいでしょう。
- 競技場の複数個所に、トイレの位置および便所へ誘導する案内を表示しましょう。